

首届全国日语本科毕业论文 研讨会论文集

主 编 小野寺健
副主编 王健宜 赵 平



中国科学技术大学出版社

日中友好市民俱乐部、山梨英和大学、淮阴师范学院 资助出版

首届全国日语本科毕业论文 研讨会论文集

常州大学 小野寿健
副主编 王健宜 赵平
藏书 书 草

中国科学技术大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

首届全国日语本科毕业论文研讨会论文集:中文、日文/小野寺健主编. —合肥:中国科学技术大学出版社,2012.7

ISBN 978-7-312-02939-4

I. 首… II. 小… III. 日语—毕业论文—写作—教学研究—高等学校—文集—汉、日 IV. ① G642.477 ② H365

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2011)第 244892 号

出版 中国科学技术大学出版社
安徽省合肥市金寨路 96 号,230026
<http://press.ustc.edu.cn>
印刷 安徽省瑞隆印务有限公司
发行 中国科学技术大学出版社
经销 全国新华书店
开本 880 mm×1230 mm 1/32
印张 11
插页 1
字数 306 千
版次 2012 年 7 月第 1 版
印次 2012 年 7 月第 1 次印刷
定价 28.00 元

巻 頭 言

「日中友好中国大学生日本語科卒業論文コンクール」が幾星霜を重ね、淮陰師範学院での教鞭は三年目を迎えるも、顕著たる功績無きは、忸怩たる思いが去来するのみである。

しかし、草莽の務めは、螻蛄の斧を、日々振るうのみ。

さて、ここに本書を上梓するのは、時代の激動と進展に、恙無く変遷を経た中国の日本語教育も、質的変換を余儀無くされ、社会及び学生のニーズと教育現場との乖離が大きく、この現状を看過すれば、後日禍根を残すと危惧するからである。

取り分け、地方の新設日本語学科の実情を鑑みれば、何らかの指針が必要なことは明らかであり、拙速や非力を承知の上で、敢えて本書を、上梓する次第である。

そこで、識者諸賢の忌憚の無い叱責に耳を傾け、改善の労をとることは、厭わない所存なので、建設的なご批判をお寄せ頂くことを、切に要請申し上げます。

なお、この書の上梓に当っては、掲載一次原稿の選択と出版事務を淮海工学院の趙平先生、掲載二次原稿の選択と校正及び編集を小野寺健、最終原稿の監修を南開大学の王健宜先生が担当し、資料の編集については、淮陰師範学院の劉峰さんと管浩然君の労を煩わせました。

また、この書が上梓の運びに至ったのは、編集と出版に精通された趙平先生と王健宜先生のご助力によるものであり、編者として、深甚なる謝意を呈したいと存じます。

そして、多事多難の折、シンポジウムに参加された先生方、掲載論文を特別寄稿された先生方に対し、合わせてお礼を申し上げます。

更に、シンポジウムの開催と出版に関し、特段のご配慮を賜った

山梨英和大学、淮陰師範学院、中国日本語教学研究会、中国日本語教学研究会江蘇省分会、中国科学技術大学出版社の皆様に、心より感謝を申し上げます。

結びに、中国に於ける日本語教育の更なる発展と、関係者のご活躍を祈念して、上梓の挨拶と致します。頓首。

馥郁たるシクラメンの薫りの下で

2011 年睦月晦日

燕雀莊藏垢子

推薦のことば

2010年に「第十回日中友好中国大学生日本語科卒業論文コンクール」が行われました。しかも、同時に「中国大学生日本語科卒業論文指導シンポジウム」も淮陰師範学院で開かれました。「十年一昔」というが、一つのコンクールが十年も続いたということは並々ならぬ努力といわなければなりません。そして、第十回コンクールとシンポジウムをきっかけに、主催者側の努力で、シンポジウムで発表された論文などを一冊にまとめ、茲に論文集として上梓することになりました。

中国の日本語教育は世界でも評価されるレベルに発展し、日本語専攻が設置された四年制の大学も500校近くになりました。これらの大学での卒業論文の質的な向上は、中国日本語教育界における重要な課題になっています。昨年のシンポジウムと今回の論文集は、その意味で大変意義深いものだと思います。

中日両国人民は相互理解を深めるために、今後も引き続き双方の若者を育成しなければなりません。ここでわれわれは30年ほど前に中国を訪問された故日本の首相大平正芳氏が講演されたときに言った言葉が思い出されます。

国と国との関係においてもっとも大切なのは、国民の心との心の間に結ばれた強固な信頼であります。この信頼を裏打ちするものは、何よりも相互の国民の間の理解でなければなりません。

国民の間の相互理解の増進を図る一つの有力な手段が、言語であることは、いまさら申すまでもありません。

以上のような相互理解の努力を通じて、世界の平和とアジアの安定の創造に寄与する日中両国の関係をより深くより広く推し進めていくことこそ、今日、両国民に課せられたもっとも大きな課題で

あると信ずるものであります。

十年も続いた「日中友好中国大学生日本語科卒業論文コンクール」は、正にその相互理解を深める一環であります。われわれ中国の日本語教師は、このような理解がもっと深まり、このコンクールが更に継続していくために、主催者側と協力しながら努力していきたいと決意しています。その意味で、茲にこの論文集を全国の日本語教師と学生にご推薦申し上げたいと思います。

北京日本学研究センター長
徐一平

目 次

巻頭言	(i)
推薦のことば	(iii)
開幕式挨拶	(1)
在“首届全国日语专业本科生毕业论文指导研讨会”开幕式 上的致辞	(1)
シンポジウム挨拶	(4)
祝辞	(6)
第十回日中友好中国学生日本語科卒業論文コンクール記念 シンポジウム基調講演	(7)
日本語を母語としない人たちに対する日本語教育に関 する一考察	(7)
新時代における中国の日本文学研究と教育について	(18)
シンポジウム発表論文	(32)
卒業論文における先行研究の地位と意義	(32)
結果より過程を重視する	(47)
中国国内の大学日本語科における卒業論文の執筆と 指導	(63)
日本語科卒業論文の独創性と指導の関与度について	(75)
特別寄稿論文	(83)
日本語学の卒業論文作成について	(83)
日本語学科大学生卒業論文指導について	(94)
中国大学生日本語科卒業論文の作成と指導	(109)

卒業論文の作成について	(120)
指導教授の役割に関する私見	(128)
第十回日中友好中国大学生日本語科卒業論文コンクールの	
発表	(149)
第十回日中友好中国大学生日本語科卒業論文コンクール	
の審査結果と山梨英和大学学長賞設定のお知らせ ...	(149)
審査委員の所感	(151)
第十回日中友好中国大学生日本語科卒業論文コンクール	
応募要項	(164)
第十回日中友好中国大学生日本語科卒業論文コンクール	
参加要項	(170)
受賞論文	(173)
付録	(251)
シンポジウムプログラム	(251)
応募論文と参加者一覧表	(253)
后记	(342)

開幕式挨拶

在“首届全国日语专业本科生毕业论文指导研讨会” 开幕式上的致辞

淮阴师范学院院长 胡相峰

尊敬的风间重雄校长、各位专家、与会学者、老师们、同学们：

大家上午好！今天，“全国首届日语专业本科生毕业论文指导研讨会”在我校隆重开幕了，来自国内外日语教育界知名专家、学者共聚淮阴师范学院，探讨、交流日语专业本科生毕业论文教学和指导的经验，这是我校日语办学史上又一件喜事和盛事。在此，我谨代表淮阴师范学院向本次研讨会的开幕表示热烈地祝贺，向来自各地的专家、学者表示热烈地欢迎和诚挚地问候。

淮阴师范学院是一所以师范教育为特色的省属高校，已有 52 年的高等教育办学历史，现有位于王营和交通路的两个校区。学校现设 17 个二级学院和 1 个民办二级学院，54 个普高本科专业，有全日制普高学生 2 万余人。学校现有专任教师 1000 余人，其中正高职 109 人，副高职 316 人，具有博士学位教师 127 人，有 68 位教师担任国内高校兼职博士、硕士研究生导师。

学校拥有 2 个省级重点实验室，1 个省级高校哲学社会科学重点研究基地培育点，5 个省级实验教学示范中心；4 个省级重点建设学科，2 个国家级特色专业建设点，2 个省级特色专业，3 个省级特色专业建设点；17 门省级精品课程。学校图书馆藏书 182 万余册，电子图书近 200 万种，中外文纸本期刊 2400 余种，电子期刊 1800 余种。

近 5 年,学校承担国家以及省、市科研基金、课题 300 余项。其中,国家哲学社会科学基金 5 项,国家自然科学基金 14 项,国家星火计划项目 1 项,教育部哲学社会科学基金 10 项。出版专(编)著近 120 部,发表论文 5500 余篇,其中被 SCI(E)、EI 收录 400 余篇,国内核心期刊 2500 余篇。《淮阴师范学院学报》(哲社版)连续多年被评为“全国百强社科学报”。

我校与日本山梨英和大学、韩国建国大学、美国萨姆休斯敦大学、法国图鲁兹第二大学等国外高校建立了合作关系,目前在国外大学就读的交换生与双学位学生共有 100 多人。

我校日语专业从 2003 年设立以来,锐意改革、大胆创新,实现了小语种、后起步、大发展的态势。近年来,我校的日语专业已经与天津外国语大学、日本三梨英和大学等国内外高校进行了广泛的国际、国内合作和交流。我校日语专业的建设与发展得到了兄弟院校与海内外同仁的大力支持:小野寺健先生欣然担任我校日语系主任;南开大学王健宜、南京大学彭曦、淮海工学院赵平等多位教授担任日语专业兼职教授;还有在座的许多专家学者,都为我校日语教学、学生培养做出了重要贡献。在大家的帮助下,我校日语专业得到了快速发展,社会声誉不断提高,取得了丰硕的办学成果。我校成功承办了第八届、第十届日中友好中国大学生日语毕业论文大赛;多名学生在日语演讲等全国性比赛中获奖。我校日语专业已经毕业四届的 190 名学生中,除考取国内外各类高校研究生 19 人外,绝大部分都进入中外独资、合资企业及政府机关,这些学生专业基础扎实、能吃苦、善钻研、成长快,得到了用人单位的一致好评。

各位来宾,这次研讨会为全国高校日语专业学生毕业论文的指导提供了很好的交流平台,对高校日语教学水平的提高起到了很好的促进作用,也为我校进一步提升日语专业办学水平提供了很好的机遇。我们能够承办这样的研讨会,感到非常荣幸,同时也十分珍惜这个难得的学习和交流机会。我们诚挚地希望,通过本次活动能

够进一步加强校际合作,加强专业办学交流,与兄弟院校共同发展,共同进步。

最后,衷心地祝愿各位专家、来宾工作顺利,身体健康,生活愉快!
祝全国首届日语专业本科生毕业论文指导研讨会取得圆满成功!

谢谢大家!

2010 年 10 月 23 日

シンポジウム挨拶

小野寺健

多事多難の折、関係者のご尽力と参加者のご協力により、本日シンポジウムを開催出来たことについて、主催者として、心よりお礼を申し上げます。

さて、卒業論文審査会及びシンポジウムについて、客観的な評価を下せば、

1. 審査委員三流
2. シンポジウム参加者二流
3. 「淮揚菜」一流

との観測があり、主催者については、四流と酷評されております。

そこで、私の立場としては、せめて三流と言われるようになりたいと、心より願っております。

ところで、刑事政策や犯罪論においては、「可塑性」ということが、しばしば論じられますが、これは、人格の改善について、若いうちは、粘土細工のように、柔軟に加工することが、可能であるとの観点に立っております。

この点からいえば、卒業論文審査委員諸氏の改善は、既に手遅れであり、「馬の耳に念仏」、「審査委員の耳に小野寺の小言」と言われており、私としても、既に匙を投げております。

これに対し、シンポジウム参加者の皆様は、私同様若くて意欲に溢れておりますので、皆様のご協力により、このシンポジウムを盛り上げ、実り多い成果を、是非実現したいと存じます。

なお、今回のシンポジウム開催に当たりましては、山梨英和大学、中国日本語教学研究会、中国日本語教学研究会江蘇省分会、中国科学技术大学出版社、人民日報社、淮陰師範学院の皆様に、多大なご支

援とご助力を賜りましたことについて、心より御礼を申し上げます。

では、皆様のご協力により、最終的には、「ノーベル化学賞」受賞を目指しますので、宜しくお願い申し上げます。

本日は、有り難うございました。

2010 年 10 月 23 日

祝 辞

中国日语教学研究会会长 修刚

高校日语专业毕业论文研讨会：

欣闻“首届高校日语专业毕业论文研讨会”在淮阴师范学院召开，非常高兴。谨代表中国日语教学研究会向会议的召开表示热烈祝贺，向为会议精心准备的淮阴师院的各位老师表示衷心感谢，向来自全国各地的学者表示崇高的敬意！

中国高等学校专业日语教育迎来了一个新的发展阶段，据教育部最新统计，在四年制大学中，已经有 466 所大学开设了日语专业，在近 600 个专业中排在第十二位。在 50 个外国语专业中，次于开设学校达 935 所的英语专业，但大大高于开设 108 所的俄语专业，占第二位。

在这样的时期内，围绕日语专业的毕业论文写作与指导开展研讨格外重要。本次研讨会，将就毕业论文写作与指导开展深入地讨论，展示最新研究成果，是不可多得的学术交流盛会，对于进一步提高中国日语教学水平、提高本科生科研水平意义重大。衷心希望在各位参会代表的努力下，产生出更多新成果，为提高中国日语教学水平做出贡献。我还要把一份感谢和祝贺送给中日友好市民俱乐部的小野寺健先生，感谢他为中国日语教育、特别是论文写作与指导方面做出的重大贡献，祝贺日语毕业论文大赛成功举办十周年。

因有重要公务，未能成行与会祝贺，深感不安，谨以此形式向大会表示祝贺，衷心祝大会取得圆满成功！

2010 年 10 月 22 日

第十回日中友好中国学生日本語科卒業論文 コンクール記念シンポジウム基調講演

日本語を母語としない人たちに対する日本語教育 に関する一考察

山梨英和大学学長 風間重雄(かざましげお)

E-mail: shg. kzm@gmail. com

1. はじめに

2010年10月23日、淮陰師範学院において標記の記念シンポジウムが盛大に開催されました。その冒頭、同シンポジウムの主催者団体のひとつである山梨英和大学を代表して、私が基調講演の演壇に立つ栄誉を与えられたことはまことに感謝に堪えません。私は、「日本語を母語としない人たちに対する日本語教育」という面ではまったくの素人ではありますが、留学生を大勢受け入れている大学の学長として日々感じていることを、写真や日本に生活をしていればごく身近に目に触れるパンフレットなどを素材として多用したパワーポイントにより、お話しさせていただきました。したがって、基調講演はまったく学問的なものではなく、また何かの研究に裏付けられたものでもありません。

このたび、記念論文集を発行するに当たり、私の基調講演も収録したいとの申し出を受け、基調講演を文章化することに致しました。

このような経緯から、本概要は、基調講演の雰囲気をも可能な限り伝わるようにするには、学術論文の形式ではなく、「私」を主語と

した文章とすること,また,論文ではあまり使われない「です。ます。」調の文章の方が望ましいのではないかと考えました。

2. 日本語のむずかしさについての一考察

かつて,30年以上も昔のことですが,アフリカのガーナからの留学生と接する機会がありました。ガーナでは公用語は英語とフランス語ですので,かれもこの両国語で教育を受けてきました。そのガーナ人留学生にとって,どうしても理解がむずかしかった日本語が『ガールフレンド』のような片仮名で表記された外来語でした。これが『girlfriend』であることを説明しても,かれの頭の中では,ガールフレンド=girlfriendとはなかなか結びつきませんでした。

また私の学生時代,図書館で勉強をしていたとき,ひとりのアメリカ人留学生が私のところにやってきて,『バラ』の漢字をおしえてほしい。さらに,『ローソク』は漢字ではどう書くのか,と聞かれたことがあります。ふつうの日本人学生には『薔薇』も『蠟燭』もたぶん書けないと思います。

このような経験から,私は,インド・ヨーロッパ語系統の言語を母語とする人たちにとっては,日本語のむずかしさは漢字にあると思うようになりました。このことは,中国語を学習する欧米人にも共通して言えることではないでしょうか。

一方,中国語を母語とする人々にとっては,日本語のどの様なところがいちばんむずかしく感じられるのか,私なりに考えるために,現在使われている日本語を観察してみました。

そのような問題意識を持って東京や甲府の街を歩きながら,商店の看板や案内(例えば,食べ物メニュー),駅の表示,パンフレットなどを観察しました。そして,あらためて,現在の日本語にはあまりにも多くのカタカナ語が使用されていることに気が付きました。また,外来語(主として英語)と日本語を混ぜ合わせた造語も多いことに気が付きました。